

第34回原子力委員会

ITER政府間協議の状況について

平成14年9月10日

文部科学省研究開発局核融合開発室

ITER: 今後のスケジュール

6月 第4回政府間協議(6月4-6日、於:フランス)
○日欧サイト提案

7月 第4回サブグループ会合(7月16-18日、於:カナダ)
○サイト共同評価開始

サイト
共同
評価

9月 第5回政府間協議(9月17-18日、於:カナダ)
○共同評価進捗状況報告

10月 第6回政府間協議(10月29-30日、於:青森)
○共同評価進捗状況報告

12月 第7回政府間協議(12月10-11日、於:スペイン)
○共同評価進捗状況報告

サイト共同評価提案書提出

○サイト共同評価報告

費用負担等と併せ、交渉

サイト共同評価用提案書

提案書の項目

1. 技術的視点

用地面積、地質、給排水、除熱、電力供給、輸送、等

2. 社会・文化的視点

交通、生活環境、教育、医療、国際性

3. 許認可のロードマップ

4. サイト支援

5. 資金的視点

廃止費用等

六ヶ所サイトの優位性

1. 優れた土地の特性

- 安定した地層が十分な厚みと広がりをも有して存在
- レイアウトの自由度が高い、平坦で広い用地
- 70haの用地の無償提供

2. 安定な電力供給と給排水能力

- 近隣の上北変電所から必要な高圧送電が可能
- 将来的なITERの長時間定常運転にも対応可能な給排水の確保が可能

3. 効率性の高い物資輸送

- むつ小川原港は5,000トンの船舶が接岸し1,000トンの機器の陸揚げが可能
- 港から候補地まで既存の道路で大型構造重量物を搬入することが可能

4. 明確な放射性廃棄物の処分

- 低レベル廃棄物処分地が隣接しており、処分の目途及び確実な費用算定が可能

5. 原子力施設に対する地元の良好な理解

- 核燃料サイクル施設が存在しており、原子力への地元の理解が深い。

6. 社会生活面

- 隣接の三沢市等には外国人の受け入れ経験のある病院が存在。
- 「国際科学技術研究文化村」の形成を目指した新たな居住空間、「レイクサイドビレッジ」を整備し提供する計画を検討
- 英語による幼稚園から高校程度を対象とする国際学校を六ヶ所村内に設立する計画を検討

ITER政府間協議について

工学設計活動(EDA)参加極およびサイト提案極により構成:

日本、EU、ロシア、カナダ

昨年の11月8～9日に第1回政府間協議が開催された。以後、現在までに合計4回協議が行われている。

主な協議項目

- ・サイト共同評価
 - －評価のためのサイト提案書の内容
 - －評価の進め方、スケジュール
 - －評価体制
- ・費用分担と調達配分
 - －立地国に応じた調達配分希望の調整
 - －調達における資金貢献部分に関する議論
 - －調達の進め方
- ・ITER事業体の組織と運営体制
 - －所長及び幹部職員の職務と選出に関する議論
 - －ITER事業体の運営体制、職員規則等
- ・共同実施協定と付属文書の作成
 - －共同実施協定、付属文書(特権免除、理事会規則、サイト支援協定等)の草案作成
 - －知的所有権に関する議論
- ・ITER建設への移行措置に関する議論
- ・政府間協議の作業計画

ITER政府間協議の現状

第4回政府間協議(6/4～6)における議論

- ・日本、EUから新しいサイト提案: 六ヶ所、バンデヨス(スペイン)、カダラッシュ(フランス)
- ・ITER共同実施協定、調達配分、運営組織に関する基本的な考え方
- ・サイト選定作業を開始することに関する合意、手順についての基本的な考え方
- ・7月にサイト共同評価を開始

(「参3」参照)

会合スケジュール

政府間協議およびサブグループ会合

第5回政府間協議(9/17～18):	トロント(カナダ)
第5回サブグループ会合(10/7～9):	青森(日本)
第6回政府間協議(10/29～30):	青森(日本)
第6回サブグループ会合(11/19～21):	場所未定(スペイン)
第7回政府間協議(12/10～11):	バルセロナ(スペイン)

サイト共同評価

カナダ(クラリントン):	9/12～14、16
日本(六ヶ所):	第5回サブグループ会合近辺
EU(バンデヨス、カダラッシュ):	第6回サブグループ会合または 第7回政府間協議近辺

この他に、必要に応じて会合を適宜開催する。

第4回政府間協議について

平成14年6月11日

文部科学省研究開発局

1. 開催日程：平成14年6月4日（火）～6日（木）

2. 開催場所：フランス・カダラッシュ

3. 参加極：日本、EU、ロシア、カナダの4極

4. 結果概要：

（1）次の点について議論。

日本、EUからの新しいサイト提案

ITER共同実施協定についての基本的考え方

サイト選定の手順についての基本的考え方

調達配分の基本的考え方

運営組織などに関する基本的考え方 等

（2）日本からの進捗状況報告等

総合科学技術会議が5月29日に結論を出し、それを基に5月31日に閣議了解を行ったことを報告。

サイト提案

我が国から青森県六ヶ所村を候補地として説明。各極は候補地を1地点に絞ったことを高く評価。

費用分担

費用分担は経済規模を反映したものとなるべきことを説明。

（3）各極からの進捗状況報告等

EUでは、5月27日にEU理事会が欧州委員会の交渉権を拡大（サイト、コスト分担等の交渉権）する提案を承認し、EU代表がスペインのバンドロスとフランスのカダラッシュの2つのサイトを提案。

カナダは、EUと日本のサイト提案と交渉権の拡大を歓迎し、サイトを選定と共同実施協定の完成にむけて、サイト共同評価の早急の着手を表明。（カナダは昨年6月にクラリントンを候補地として提案。）

ロシアは、ITER関連の活動は最も高い優先度をもっており、産業界と密接な関係を

もちつつ、ITERの建設準備を目的とする連邦計画（2002～2005 年）に基づき進めている。新たなサイト提案を歓迎。

（４）サイト共同調査

次回サブグループ会合（７月、トロント）を経て、サイト共同調査を早急に着手すべきと認識。

サイト評価の進捗の報告を第５回政府間協議（９月１７，１８日、トロント）で行うこととなった。

（５）日程

第５回政府間協議　　９月１７～１８日　トロント

第６回政府間協議　１０月２９～３０日　青森

となった。

（６）その他

会議の冒頭に、仏国コロンバーニ原子力庁長官と英国キング政府首席科学顧問から歓迎と核融合の将来への期待についての発言があった。

第4回 I T E R 政府間協議 (N 4) 参加者

日本 委員	青江 茂	文部科学審議官 (代表)
	天野之弥	外務省大臣官房付 (大使)
	素川富司	文部科学省官房審議官
	榊原裕二	内閣府政策統括官付参事官
	大竹 暁	文部科学省核融合開発室長
	岸本 浩	原研理事
	吉川允二	原研顧問
E U 委員	ミトソス	欧州委員会研究総局長
	フィンチ	欧州委員会研究総局顧問
	他	
ロシア委員	ヴィノグラドフ	原子力省第一次官
	ヴェリコフ	クルチャトフ研究所総裁
	他	
カナダ委員	キャンベル	カナダ連邦天然資源省
	スチュワート	I T E R カナダ取締役
	他	
国際チーム	エマール	国際チームリーダー
	下村安夫	国際チーム共同リーダー
	他	

世界のITERサイト候補地

